

## (1) 経緯

地球温暖化対策推進本部（2015年11月26日）及び第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21：11月30日）において、エネルギー・環境分野の革新的技術の開発に向け集中すべき有望分野を特定し、研究開発を強化すべく、来春までに「エネルギー・環境イノベーション戦略」をまとめる旨安倍総理から表明。

## (2) 対応

総合科学技術・イノベーション会議の重要課題専門調査会の下に、エネルギー・環境イノベーション戦略策定ワーキンググループ（WG）を新たに設置し、長期的視野に立ち具体策を検討し、来春までにとりまとめる。

## (3) WGにおける検討内容

温室効果ガス排出量の抜本的削減効果が見込まれ、かつ世界に展開可能な革新的技術  
各技術の具体的な実現目標と実現時期  
各技術の研究開発の進め方 等

## (4) 今後の予定

12月15日 第1回WG

---

1月中下旬	第2回WG	第1回指摘事項への対応、対象技術の絞り込み
2月中旬	第3回WG	対象技術の技術課題や対応策の整理、とりまとめ（骨子）議論
3月	第4回WG	とりまとめ

## 2. 戦略の対象となる革新技術候補の例

今後、抜本的排出削減を実現する革新技術を特定していく。

新エネルギー分野

蓄エネルギー分野

省エネルギー分野

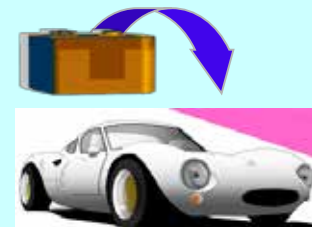
CO2固定・  
原料化分野

革新的な基盤材料・デバイス分野

・あらゆる分野で革新的技術開発に貢献する基盤材料・デバイス分野の新技术

次世代蓄電池

これまでとは異なる新素材等を使った、現在より大幅に低コストかつ高性能な蓄電池。



水素製造、貯蔵・輸送、利用

再生可能エネルギー（太陽光、風力等）等を用いて製造した水素を貯蔵・輸送、利用する技術。

